

# ★ CONTENTS ★

回	単元名	主な学習内容	ページ
第1回	古文のイントロダクション	歴史的仮名づかい	4～7
第2回	品詞の分類	文語品詞の大まかな分類	8～11
第3回	動詞	文語動詞の活用と活用形	12～15
第4回	係り結びの法則	「係り結びの法則」の原則	16～19
第5回	和歌のイントロダクション	三大集の特色と和歌の技法入門	20～23
第6回	古文の基礎知識	月の異名・十二支による方角と時刻	24～27
第7回	漢文のイントロダクション	訓点と書き下し文	28～31
第8回	漢詩	漢詩の詩形と押韻，構成	32～35
第9回	史話	問題演習	36～39
ノート例			40

## ● 取り扱った主な文章など ●

### 古文

- 第1回 徒然草，平家物語
- 第2回 宇治拾遺物語，竹取物語
- 第3回 徒然草，平家物語
- 第4回 徒然草，伊勢物語
- 第5回 万葉集，古今和歌集，新古今和歌集
- 第6回 方丈記

### 漢文

- 第7回 論語
- 第8回 孟浩然や李白，杜甫，白居易の唐詩
- 第9回 十八史略，史記

# 第1回 古文のイントロダクション

ポイントの確認 皆さんはこれまでに、次の歌を歌ったことはありませんか？ あるいは、卒業式で歌う予定はないですか。

文部省唱歌「仰げば尊し」

1	仰げば尊し	我が師の恩
2	教への庭にも	はや幾年
3	思へばいと疾し	この年月
	今こそわかれめ	いざさらば

実はこの歌には、皆さんも一度は学習しているはずの、古文の基礎となる三つのポイントが含まれているのです。一つひとつ見ていきましょう。

## ① 歴史的仮名づかい

現代では「教へ」は「教え」、「思へば」は「思えば」と書きますね。このような古文で用いられた仮名づかいを「歴史的仮名づかい」といいます。ただし、これは書き方に限ります。読み方は現代語と同じと考えてかまいません。つまり、今私たちが話しているのと同様に、「教へ」は「おしえ」、「思へば」は「おもえば」と読んだのです。

□(1) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と発音します

【例】 いへ(家) ↓ いえ。 くふ(食う) ↓ くつ。

☆ 次の古語は現代語ではどのように読みますか。ひらがなで答えなさい。

- ① おもふ(思ふ) [ ]
- ② には(庭) [ ]
- ③ かほ(顔) [ ]
- ④ かは(川) [ ]
- ⑤ つかひ(使ひ) [ ]
- ⑥ にはふ(匂ふ) [ ]
- ⑦ あはれ [ ]

□(2) 「ゐ・ゑ・を・ぢ・づ」は「い・え・お・じ・ず」と発音します。  
☆ 「ゐ・ゑ」と書いて練習しましょう。

ゐ									
ゑ									

☆ 次の古語は、現代語ではどのように書きますか。ひらがなで答えなさい。

- ① ゐなか(田舎) [ ]
- ② こゑ(声) [ ]
- ③ はぢ(恥) [ ]
- ④ みづ(水) [ ]
- ⑤ やをら [ ]

□(3) 母音が「う」の音に続く場合は、次のように発音します。

- A 「あう」↓「おう」 [例] まうす(申す) ↓ もーす
- B 「いう」↓「ゆう」 [例] ひさしう(久しう) ↓ ひさしゅー
- C 「えう」↓「よう」 [例] けうくん(教訓) ↓ きょーくん
- D 「おう」↓「おー」 [例] おうず(応ず) ↓ おーず

☆ 次の古語は現代語ではどのように読みますか。ひらがなで答えなさい。

- ① たまふ(給ふ) [ ]
- ② いろいろい(幽霊) [ ]

参考 いろは歌ーほとんどの仮名が含まれています。覚えましょうー

いろは にほへと ちりぬるを わかよ たれそ つねならむ  
うゐの おくやま けふこえて あさき ゆめみし ゑひもせす

(色は 匂へど 散りぬるを 我が世 誰ぞ 常ならむ  
有為の 奥山 今日越えて 浅き 夢見じ 酔ひもせず)

## Q&A 「暗記は役に立つのですか」

先生から「覚えろ」、「暗記しろ」と言われたことはないですか？ 「暗記なんて古くさい」などと馬鹿にしないでください。古典の有名な一節を声を出して読み、覚えてください。必ず役に立ちますよ。

## ② 現代語とは意味の異なる言葉

「いと」って何だろう？ 「糸」かななどと思っただけです。この「いと」は、現在では使われなくなった「非常に」「たいそう」という意味の副詞なのです。「疾しと」は「はやい」という意味の形容詞です。つまり「非常に早い」という意味になります。

このように古語には、現代語とは異なる言葉が多くあります。古文読解に必要な不可欠な重要語は、数え方にもよりますが、約二百語であるといわれています。このテキストであつかったものだけでも覚えていきましょう。

古文の読解も英文和訳と同じで、単語力が勝負になってきます。ちなみに、古文単語は次のように分類できます。

- ☐ 現代語にもあるが、意味がちがう古今異義語
- ☐ 知らなければ訳せない古文の特有語
- ☐ 現代語訳の要点になる文法的用語

では、『徒然草』第五十二段からの問題です。皆さんも一度は読んだことがあるのではないですか。まず、左下の現代語訳を読まずに解いてください。解けない場合は、読んでみてもう一度やってみましょう。

☆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) —線①〜④のこの場合の意味として最も適切なものを次からそれぞれ

選び、記号を○で囲みなさい。ただし、④は、「ゆかし」という言い切り  
の形の意味を選びなさい。

- ☐ ① ア 不安に                  イ 残念に                  ウ 大切に                  エ 不思議に
- ☐ ② ア 争って                    イ 一致して               ウ 聞いて                  エ 向かって
- ☐ ③ ア 長年の間                 イ 最近                    ウ 若いころ                エ 昔に

☐ ④ ア 懐かしい    イ 上品だ  
ウ 知りたい    エ おくゆかしい

(2) —線Aは「これだけ」という意味です。法師は「極楽寺・高良など」  
を何だと思ひこんだのですか。それを示している言葉を三字で書き抜きな  
さい。

☐ ③ —線Bについて、「あらまほし」の意味を答えなさい。

## 《現代語訳》

仁和寺に（いた）ある法師が、年をとるまで石清水八幡宮にお参りしたことがなかったの  
で、<sup>①</sup>心うく思われて、あるとき思い立って、ただ一人、徒歩で参拝した。（ふもとにあ  
る）極楽寺や高良神社などを拜んで、これだけのものと思ひこんで、帰ってしまった。

さて、仲間に<sup>②</sup>あひて、「年ごろ思い続けてきたことを果たしました。話わに聞いていた  
のにも勝って、尊おんい御み有り様さまでした。それにしても、お参りに来た人々が皆山へ登ったのは、  
（山の上に）何事があったのでしょうか。（それを）<sup>④</sup>ゆかしかりはありましたが、神社へ参  
拝するのこそ本来の目的であると思っつて、山までは見ませんでした」と語ったことである。

ちよっとしたことにも案内者は<sup>B</sup>あらまほしきことである。

練成問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(平家物語)



(1) この文章の情景について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① この情景はいつごろのことですか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 早朝    イ 真昼    ウ 夕方    エ 深夜

□② この情景がいつごろのことか判断できる理由として、「酉の刻」という言葉があります。もう一か所、はっきりと判断できる理由になる語句がありますが、その語句を書き抜きなさい。

□③ 主人公の与一は、沖の平家方でしたか、陸の源氏方でしたか、答えなさい。

□④ 線①～④をそれぞれ現代かなづかいになおし、すべてひらがなで書きなさい。

③	①
④	②

□⑤ 線Aを現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 快晴の天気であった    イ 晴れがましい情景であった

- ウ 気持ちが沈んでいた    エ 空は晴れてはいなかった

□⑥ 線Bを現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 射にくく    イ 射ようという気に

- ウ 射やすそうに    エ 射たような気に

□(5) —線Cを現代語に訳すとどうなりますか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 小兵とはいいながら      イ 小兵といっしょに  
ウ 小兵であったので      エ 小兵と言っていたので

(6) —線あについて、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① 「与一」のあとに助詞を補うとすれば、どれが適切ですか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア で      イ に      ウ を      エ は

□② 「目をふさいで」与一が祈った内容のうち、最も重要な部分はどこですか。十五字で書き抜きなさい。


□(7) —線い「散ったりける」とありますが、何が「散って海に落ちた」のですか。答えなさい。

(8) 沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。という部分に用いられている技法について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① この技法について述べた文として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 人間以外のものを人格化し、人間にたとえています。  
イ 組み合わせの語句を用い、対照的に表現しています。  
ウ あるものを他のものに直接たとえて表現しています。  
エ 同じ語句を何度も繰り返し返し、感動を強調しています。

□② この技法の名称として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 直喩法      イ 反復法      ウ 擬人法      エ 対句法

□(9) 与一のみごとな成功を見て、人々はどのように感じましたか。最も適切な説明を次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア あまりのみごとな成功に、平家も源氏も、声さえ出せないほど感心しました。  
イ あまりのみごとな成功に、平家も源氏も関係なく、感嘆してはやしたました。

ウ 平家方は落胆して声も出ませんでした、源氏方は感嘆してはやしたました。  
エ 源氏方は落胆して声も出ませんでした、平家方は感嘆してはやしたました。

第1回の重要語句

- 心うし      つらい。いやだ。残念だ。  
□ 年ごろ      長い年月。長年の間。  
□ ゆかし      心がひきつけられる状態。見たい。聞きたい。知りたい。  
□ あらまほし      あることが望ましい。  
□ おぼす      「思ふ」の尊敬語。お思いになる。

さて、ポイントの3の「今こそわかれめ」についてまだ触れていませんね。この3番目のポイントについては、動詞の活用を学習してから、確認していくことにします。ですが、ちょっとだけ触れておきましょうか。見当のついている人もいるのではないですか？ そう、「係り結びの法則」が3番目のポイントです。第4回で学習しますのでそれまでお預けです。「今こそわかれめ」とはどういう意味かを考えてみてください。